森林総合研究所プレスリリース

森林総合研究所は、長年保管してきた古い資料の中から昭和初期に国有林内の天然林で行われた森林調査の膨大な報告書の原資料（662件）を整理し、わかりやすい目録として印刷・公表しました。

これらの資料は、昭和初期に青森から九州、屋久島まで一斉に行われた調査結果を取りまとめた貴重な資料です。

大正から昭和初期にかけて、わが国では抜き伐りによる天然更新が進められました。その際に、当時国有林を管轄していた農林省山林局は、天然林調査を大々的に行いました。青森から熊本までの六つの営林局による膨大な調査資料は、各営林局から山林局に「国有天然林調査報告書」として提出され、一部の資料については公刊もされました。しかし、戦争激化のためか、全資料の公刊には至りませんでした。戦後、この調査資料は林野庁の林業試験場（現・森林総合研究所）に移され、その一部は昭和20年代に当時の林業試験場職員の研究論文の基礎データとして活用されました。その後、木材生産のための人工林研究が主体となる中、この戦前の天然林調査資料は長らく使用されることも少なく、保管庫で保存されてきました。

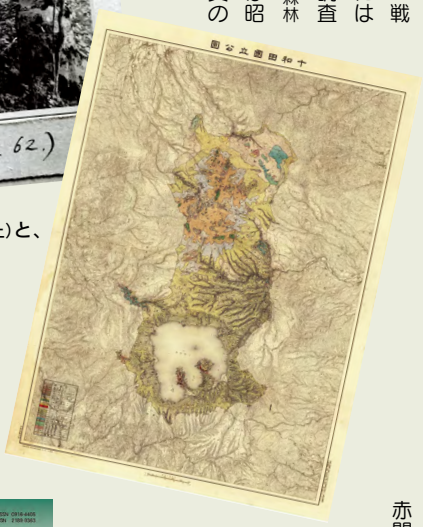
今回、目録を作成した「国有天然林調査報告書」の資料は、戦後の拡大造林期以前にあった天然林の姿を記録したものとして、たいへん貴重な資料です。

戦中・戦後の伐採で失われたであろう、多くの天然林の姿を今に伝える植生データや、精密な手描きの森林断面図、平面図、膨大な数の直径と樹高の調査原簿、現場写真などが含まれています。

この資料における調査地点と同じ場所に、いまも残る天然林があるなら、その場所を過去と同じ手法で調査することで、過去90年間の気候や土地利用の変化を受けて、森林がどのように変化・遷移してきたのかを明らかにすることができます。

温暖化が進む中で森林や植物の分布が、どのように変化していくのかを探る上でも、また今後の森林管理のあり方を考える上でも、比較の原点となる貴重な原資料です。

森林総合研究所は、各地方の森林に興味を持つ研究者と協働しつつ、この昭和初期の原資料を活用した研究を全国規模で発展させたいと考えています。



青森営林局の写真帖（上）と、森林植生図（右）

森林総合研究所研究報告

▼総説

アカマツの窒素利用特性と生育適地の関係 ―林木の栄養生理における一考察―

赤間 亮夫、溝口 岳男、長倉 淳子

◀森林総合研究所研究報告
Vol.19 No.3（通巻 455 号）
2020 年 10 月
https://www.ffpri.affrc.go.jp/pubs/bulletin/455/index.html

▼論文

林試の森公園（東京都）におけるチョウ類相の変遷

井上 大成

▼短報

林木育種におけるQRコードラベルの屋外耐久性実験

松永 孝治、竹田 宣明、福山 友博、武津 英太郎、栗田 学

森林作業道の情報化施工に供する油圧ショベルの姿勢演算精度

山口 浩和、鈴木 秀典、佐々木 達也、市川 作雄、山内 延恭

▼研究資料

昭和初期の国有天然林調査報告書の発見

新山 馨、柴田 銑江、黒川 紘子、松井 哲哉、大橋 春香、佐藤 保

プレスリリース等の最新情報はこちらから→
https://www.ffpri.affrc.go.jp/topics/index.html

お問い合わせ
森林総合研究所
企画部　広報普及科　広報係
TEL　029-829-8372
Email　kouho@ffpri.affrc.go.jp

◀持続可能な開発目標（SDGs）
森林総合研究所は、森林・林業・木材産業等の幅広い研究を通して、国連の持続的な開発目標（SDGs）の達成に積極的に貢献しています。該当する目標と記事のページ数は、左記の通りです。

P.3, 14　P.3, 14　P.14, 18　P.14, 16　P.14　P.14
P.14　P.14　P.3, 14, 16　P.3, 14, 16　P.3, 14, 16, 18, 20　P.14　P.8